

イギリスの学校給食に関する研究（Ⅱ） —多文化教育の観点から—

鈴鹿短大 矢田貞行

目的 イギリスは目下、人口の5%近くをアジア・アフリカ系の移民が占める多文化国家 (multi-cultural nation) である。政府は、1985年のスワンレポートにおいて、イギリスが多文化社会であることを公的に認め、そのための教育的施策を講じてきた。地方ではこれに先立ち、このような移民に対する同化、多文化教育、さらに進んで反人種差別教育にまでその実践を拡げてきている。本研究では、このような多文化教育を学校給食の中で捉え、そこでの実践を明らかにする。

方法 多文化教育の実践を幅広く行っている地方教育当局からの資料を中心にして、分析をする。

結果 概ね学校給食を実施している所では、主として宗教的観点（イスラム教徒等）から、主食 (main dish) を肉食と菜食の2つのコースいずれかから選択できるようにするなどの配慮を行っている。